

明德義塾中学校・高等学校

新シリーズ：「International Boarding School」で学ぶ 第8回

明德義塾文化祭

2010 年度・文化祭実行委員長 菊地 翔

今回は明德義塾中・高等学校の文化祭の様子をご紹介します。紹介してくれるのは、2010 年度・文化祭実行委員長の菊地翔君です。菊地翔君はインドネシアのジャカルタ日本人学校（小・中学部）を卒業の後、明德義塾高校に入学、現在は特別進学コースの2年生として学年のリーダーとして頑張ってくれています。それでは菊地翔君のレポートを、以下原文のまま紹介させていただきます。

広報入試部長 高橋 聖

文化祭のねらい

Circle、これが今年の文化祭を催すにあたってのテーマです。全校生徒が輪の样につながれるように、という意味をこめて作られたこのテーマはとても重要なものです。このテーマは、私達文化祭実行委員にとって明確な目標なのです。物事を始めるには目標が必要です。

明德義塾には数多くの留学生がいます。日本語以外の言語を耳にするのは日常茶飯事。そんなたくさんの留学生と日本人との交流が一つ。もう一つは、明德義塾は部活動単位で動くことが多いので、たまにはクラス単位での団結力を高めること。

この二つが、私達が掲げた目標であり、今回の文化祭のねらいです。

当日に至るまでの準備

明德義塾は部活動が盛んな学校であり、部活動に重点を置いています。よって放課後に実行委員全員が集まって活動することがとても難しく、昼休みや休み時間、休日などを削って準備するしかありませんでした。



菊地君（写真中央）

また高校は2つのキャンパスに分かれており、連携がとりにくく、決してとんとん拍子に進むということはありませんでした。

そのような環境の中、実行委員の中にも意見の対立が見えはじめ、気まずい雰囲気になってしまったこともあり、一番上に立つ者として学んだことは、たくさんの人をまとめあげるのとは簡単なことではないということでした。

文化祭の前日は嵐のように忙しく、皆で一生懸命走りまわったのですが、結局当日の朝一番に学校に登校し準備する始末・・・

ですが、一般生徒が登校する時間には何とか準備を終えることができ、万全の状態で文化祭を迎えることができました。

今回の文化祭の内容

今回の文化祭の催しものは例年以上に内容が濃いものとなりました。

各クラスによる模擬店の出店。これにより各クラスで団結して販売してもらう。これは毎年行っているものであり、目新しさが何もない。

ということで今年は「ちぎり絵」を各クラスに課しました。和紙をちぎり、大きな模造紙にはる。これにより文化祭のテーマである「Circle」の大きなオブジェが完成しました。初めて計画したにしては出来がよく、感嘆の声が聞こえてくるほどでした。

ステージでの催し物は三つ、有志発表、ゲストによる演奏、そして去年とても盛り上がった逆ミスコンです。

有志発表では生徒たちによる漫才、ダンス、バンドの披露。少ない練習時間でもそれらの発表はどれも良く、中途半端なものは一つもありませんでした。

今回のステージの特別ゲストはミュージシャンである「ボクン家」の二人でした。岡山を中心に活動をしている彼らが、今